

1 スクールミッション、学校教育目標		就騰も進学も強い！元気下関 ～生徒が主役の学校づくり・未来に奮める人づくり～	
県内唯一の市立商業高校として、下関市を中心とした地域・社会や地元企業・大学等と連携・協働した実践的・体験的な教育活動や、様々な資格取得に向けた専門的な学びを通して、郷土に誇りと愛着をもち、社会に貢献し、経済社会の持続的な発展を支えるビジネスのゼネラリスト、スペシャリストを育成します。			
【学校教育の基本方針】		<input type="checkbox"/> 普通教科と専門教科をバランスよく実施し、 確かな学力と社会人としての基礎力 を育成します。 <input type="checkbox"/> 地域社会や地元企業・大学等と連携した 実践的・体験的な教育活動 を行います。	
【育てたい生徒像】		<input type="checkbox"/> 地域産業の発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒 <input type="checkbox"/> 高い志をもち、多様な人々と協働しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒	
【教育実践の4つの柱】		<input type="checkbox"/> 轍をつなぐ…3年間を見通したキャリア教育の推進 <input type="checkbox"/> 地域をつなぐ…保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信 <input type="checkbox"/> 学びをつなぐ…確かな学力・社会人基礎力の育成と資格取得の奨励 <input type="checkbox"/> 心をつなぐ…生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実	

2 スクール・ポリシー	
（商業科） （商業情報処理科）	クラデュエーション・ポリシー （育成をめざす資質・能力に関する方針） <input type="checkbox"/> 地域産業の発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒を育成します。 <input type="checkbox"/> 高い志をもち、多様な人々と協働しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒を育成します。 カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針） <input type="checkbox"/> 普通教科と専門教科をバランスよく実施し、確かな学力と社会人としての基礎力を育成します。 <input type="checkbox"/> 実社会で活用できるビジネススキルの習得や高度な資格取得に向けた教育活動を行います。 <input type="checkbox"/> 地域社会や地元企業・大学等と連携した実践的・体験的な教育活動を行います。 <input type="checkbox"/> 部活動や生徒会活動、学校行事等、生徒による自主的・自発的な活動を積極的に支援します。 アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針） <input type="checkbox"/> ビジネスに関する知識と技術を習得し、それを活かして就職又は進学したいと考えている生徒を募集します。 <input type="checkbox"/> 将来、地域産業の発展を支える職業人になりたいと考えている生徒を募集します。 <input type="checkbox"/> 学習や様々な教育活動を通じて、充実した高校生活を送りたいと考えている生徒を募集します。

3 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）	
総務	他の分掌と連携して学校行事の円滑な運営を行うことに努める。学校の情報を的確かつ迅速に発信できるように努める。
教務	新教育課程移行に伴う授業の運用や、学習評価の定着・検討を行う。業務内容を確認し、教員の負担の軽減と次年度以降の業務引継の効率化を図る。
生徒指導	学校行事や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の満足度を上げていきたい。また、学校教育目標の「凡事徹底」の4項目を中心に指導を進めていきたい。身だしなみについては、就職面接での服装を基準として教職員の共通理解のもと指導を進めていく。
進路指導	企業や大学等との情報交換を密に行い、保護者や生徒に積極的に情報提供したい。各学年での進路ガイダンスを有効に活用し、生徒の進路実現に努めたい。
保健体育	担任等と連携し、健康観察や治療勧奨を行うとともに、保健だよりや生徒保健委員会の活動を通して、健康情報の発信を行い、生徒の自己健康管理能力を育てたい。
教育相談・人権教育	生徒が安心して学校生活を送れるよう適切な支援を全校体制で行いたい。また、自己肯定感を培い他者尊重の意識を育める環境づくりに努めたい。
図書	魅力的な図書館となるよう、生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書を心掛けたい。読書・学習・情報の各センターとしてのそれぞれの機能を、時代に合った形でより洗練させていきたい。
情報	校内のコンピュータ機器や校務システムを整備し、滞りないよう運用・管理を行う。学習用端末を積極的に活用できるよう、研修の実施や規定の整備等を行い、不具合等が発生した場合は迅速に対応できるように努める。
1年	適切な言動を、自分で考え、実践できる生徒を育成する。また、生徒一人ひとりの進路目標を明確にしていきたい。
2年	キャリア教育を充実し、生徒が自己の進路目標を確立できるようサポートする。
3年	一人一人が希望する進路を実現できるように多面的にサポートする。また、自己肯定感を高め、他者尊重の態度、社会人基礎力を培えるよう支援する。
商業	校内外での研修を充実させる。地域社会に貢献できる人材を育成できるよう、地元企業と連携し、社会人基礎力、ビジネスマナー、実践力を育成していく。卒業までに全商検定1級3種目以上40名をめざす。
情報処理	クラス担任・教科担当者等との連携・協力を深め、資格取得や進路実現に向けて適切な指導を行う。プログラミングやネットワークに対する興味関心をしっかりと持たせ、より高度な資格取得を目標にする。
業務改善	「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」の3つの柱をもとに働き方改革を推進し、各業務の目的を共有し協働して教育活動を行う業務体制を整える。また、教職員が心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりに取り組む。

4 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	
【令和6年度重点目標】	
<input type="checkbox"/> 凡事徹底…①進んで挨拶をする。 ②掃除を徹底する。 ③時間・約束を守る。 ④服装・身なりを整える。 <input type="checkbox"/> 生徒が主役の授業づくり…①わかる授業 ②主体的・対話的な授業 ③探究的な授業 ④ICTを活用した授業 <input type="checkbox"/> チャレンジ目標…①国公立大学合格 20人以上 ②就職内定率 100% ③全商検定1級3種目以上合格 40人以上	

5 自己評価					6 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
総務	情報発信の充実	①インターネットを使った情報発信	学校評価アンケート（保護者）の項目で「お子様の学校生活の様子は、ホームページ等で、家庭へよく伝わっていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
		②学校案内による学校紹介	学校案内が分かりやすく編集されている。			
教務	学力向上	①基礎学力の充実に着目した授業づくり ②自主学習の習慣化への工夫 ③補習・課外や個別指導 ④基礎力診断テストの活用	学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、授業に積極的に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
			学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、家庭学習を行う習慣ができていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
			学校評価アンケート（教員）で「私は、基礎学力の充実にに向けた授業づくりの工夫を行っている。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
			学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、学校の授業について十分理解していると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
教員の指導力向上		①生徒による授業評価の実施 ②研究授業、公開授業の実施 ③校内外の研修会への積極的参加	基礎力診断テストの状況			
			学校評価アンケート（生徒）で「先生方は、あなたの学力の定着を図るための授業や補習など熱心に取り組んでいると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
			学校評価アンケート（教員）で「授業アンケートの結果に基づき、授業改善に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
			学校評価アンケート（教員）で「教材研究、公開授業や各種研修会等に参加するなど授業研究に取り組んでいる。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			

教務	学習支援体制作り	①学習内容の充実 ②授業時間の確保 ③評価規準の検討・改善	学校評価アンケート（生徒）で「本校は、進路に応じた教育課程や選択科目が用意されていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。 学校評価アンケート（生徒）で「先生方は、あなたの理解度に合った適切な学習指導をしていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	学校行事の充実	①学校行事の見直し ②各種委員会の活性化 ③学校行事の分担制	学校評価アンケート（生徒）で「学校行事等の満足度」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
生徒指導	生徒の規範意識の向上	①頭髮服装指導の実施 ②登校指導の実施 ③風紀委員による挨拶運動の実施 ④J R乗車指導の実施 ⑤通学路指導の実施	学校評価アンケート（生徒）で「校則や決まり事を守っている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	環境美化の推進	①清掃活動の推進 ②大掃除の定期的な実施 ③クリーン大作戦の実施	学校評価アンケート（生徒）で「意欲的に清掃活動に取り組んでいる」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	情報モラル教室の推進	①携帯安全教室の実施 ②新入生へのSNSトラブルの注意喚起	携帯安全教室のアンケート結果において、「SNSの利用を見直そうと思った」の項目が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	キャリア教育の充実	①生徒・保護者への進路情報の提供 ②進路ガイダンスの実施 ③3年間のキャリア教育に基づいた指導	学校評価アンケートで「進路に関する情報を積極的に提供し、生徒への進路指導は十分行われている」が A：80%以上であった。 B：70%以上であった。 C：60%以上であった。 D：60%未満であった。				
進路指導	就職内定率100%	①求人開拓 ②個別面接指導 ③就職課外指導 ④企業見学への参加	就職内定率が A：100%であった。 B：90%以上であった。 C：80%以上であった。 D：80%未満であった。				
	国公立大学を中心とした進学指導	①個別課外指導（小論文、面接、教科指導等）	第1志望の進学先に A：90%以上が合格した。 B：80%以上が合格した。 C：70%以上が合格した。 D：70%未満が合格した。				
	健康意識を高め、自己の健康管理を実践する力の育成	①健康観察の徹底や疾病異常者の早期受診指導 ②心のケアや健康相談体制の充実 ③健康に関する情報の発信 ④生徒保健委員会活動の充実	健康観察の実施状況、要治療者の受診状況。 担任、教育相談等と連携し、情報共有しながら生徒対応できたか。 保健だよりの発行状況。 生徒保健委員会の活動を通して、健康教育の充実を図ることができたか。				
保健体育	適切な判断力・行動力・自他への安全意識の育成	①私語を慎む ②時間を厳守 ③服装を正す ④挨拶の励行 ⑤傾聴を正す	アンケートで①から⑤の項目に関する達成度が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	教育相談の充実	①学校生活アンケートの実施 ②対面による面談、メールによる相談の実施 ③教員間、S Cと協力して問題の改善を図る	学校生活アンケートを A：8回以上実施し、適切に対処した。 B：7回実施し、適切に対処した。 C：5回実施し、適切に対処した。 D：3回実施し、適切に対処した。 学校評価アンケート（生徒）の項目で「悩みに関する相談について、適切に対応していると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
教育相談・人権教育	人権教育の推進	①クレベリン検査、Σ検査等を実施して生徒理解を深める ②人権、命の尊さに関する生徒向けの講演会の実施 ③教職員向けの人権教育、特別支援教育に関する研修会の実施	各種検査、生徒向け講演会、教職員研修会を A：全て実施した。 B：2つを実施した。 C：1つを実施した。 D：いずれも実施しなかった。				
	いじめ防止の推進	①いじめ調査（学校安全アンケート）の実施 ②授業やLHRを通して啓発活動を行う	学校評価アンケート（生徒）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。 学校評価アンケート（保護者）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。				
	図書	魅力的な図書館作り・運用・保守	①生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書 ②読書・学習・情報各センターとしての機能の洗練	本の貸し出し冊数の変化			
情報	情報機器・校務システムの管理・運用・保守	①学習用端末の管理・運用・保守 ②校務システムの円滑な運用	学習用端末や校務システムなどが整備されており使用しやすい環境である。				

第1学年	基本的生活習慣の確立	①授業や学校生活の中で凡事徹底を図る	学校評価アンケート（生徒）の項目で「基本的生活習慣や社会のルール・マナーを身につけるよう努めている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
		②将来を見据えた目標設定や生き方・在り方を具体的に考える	学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
第2学年	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立できるようにする	①授業やLHR等を通して将来のビジョンを具体的に考える	学校評価アンケート（生徒）の項目で「あなたは、自らの進路について、はっきりとした目標をもち学校生活を送っていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
		②家庭と密に連絡を取り情報提供に努める	学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
第3学年	社会人基礎力を習得させ、自ら主体的に考え行動できる力を養成する	①自己実現に向けて社会性や主体性を育てよう学校生活をサポートする	学校評価アンケート（生徒）の項目で「本校に入学して、言葉遣い、マナーなど社会人として必要な資質が向上していると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
		②保護者と密に連絡を取り、定期的に進路情報を発信する。	学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
商業科	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習と課外を実施する	日商簿記3級130名以上、全商情報処理2級145名以上の取得			
	2学年…コース別学習の充実、上級資格取得への取組	①グループワークや外部講師による講演、校外学習などを実施する ②全商検定1級取得をめざす	グループワーク等を積極的に取り入れる。全商簿記実務検定1級50名以上、全商ビジネス計算実務検定1級25名以上、全商ビジネス文書実務検定1級15名以上の取得			
	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取組	①「総合実践」でビジネスマナー教育を実践 ②商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得をめざす	全商検定1級3種目以上合格者数30名			
情報処理科	2学年…意欲的に資格取得に取り組む	全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得を目指す	情報に関する応用的な内容の理解と、全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得。			
	3学年…情報に関する専門性を高める	WEBサイトの制作や電子商取引、PHPを使ったプログラミングなど、高いレベルの知識・技術を習得する	全商検定1級3種目以上合格者数20名 高度資格取得（日商簿記2級、ITパスポート）			
特色ある教育活動の推進	実践的な取り組み	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	学校評価アンケート（生徒・保護者）の項目で「本校は特色ある教育活動を行っていると思う」が、 A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
	高度な学習の展開		日商簿記、ITパスポート等の高度資格取得合格者数の割合及び合格者数が前年度比 A：割合、数ともに増加した。 B：割合、数のいずれかが増加した。 C：変わらなかった。 D：割合、数ともに減少した。			
業務改善	働き方改革に係る「当事者意識」の高揚と、協働の業務体制を整える	①各業務の目的を明確化して共有し、協働による業務体制で教育活動を遂行する。 ②業務時間削減に向けて、主体的にセルフジョブコントロールに取り組む。	学校評価アンケート（教員）の項目で「在校等時間記録表に基づきセルフジョブコントロールを推進している」が、 A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			
	働き方改革に係る具体的な行動	①長期休業中の「時差出勤」や「学校閉庁日」を活用し、ワーク・ライフ・インテグレーションを実現させ、充実した仕事と生活を営む。 ②適切な業務分担で業務遂行にあたり、全体の進捗度に応じてサポートできる体制を整える。	学校評価アンケート（教員）の項目で、「長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている」が、 A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。			

7 学校評価総括（取組の成果と課題）

【総務】
【教務】
【生徒指導】
【進路指導】
【保健体育】
【教育相談・人権教育】
【図書】
【情報】
【第1学年】
【第2学年】
【第3学年】
【商業】
【情報処理】
【業務改善】

8 次年度への改善策

【総務】
【教務】
【生徒指導】
【進路指導】
【保健体育】
【教育相談・人権教育】
【図書】
【情報】
【第1学年】
【第2学年】
【第3学年】
【商業】
【情報処理】
【業務改善】